



島教協

《 すべては「子どもたちのために」 》 情 報

http://www.kyougikai.org

E-mail
office@kyougikai.org

〒693-0011 出雲市大津町2214 Tel/Fax:0853(22)7762 代表者 吉田 修 編集人 曾田史郎

No.657

島教協 教育講演会

日本人はなぜ日本のことを知らないのか
〜神話を学ぶ大切さ〜

講演講師 竹田 恒泰氏



十月六日(日)、作家・憲法学者の竹田恒泰さんを出雲市の朱鷺会館にお招きし、教育講演会を開催しました。会員の皆さんに限らず、広く告知をしたところ、教育関係者、一般の方を含めて、約二百人の参加者で会場は満席となりました。
世界中の国民が知っている自分の国の成り立ちを、日本人の多くが答えられないこと、日本が現存する世界最古の国家であること、神話が日本社会全体の基礎となっていることなど、時間を延長してまでお話をしていただきました。
講演後のサイン会は、飛行機の時間の都合もあり、残念ながら十分時間はとれませんでした。今年度の島教協教育講演会を大盛況の内に終了することができました。
講演会の後、島教協の活動に興味を示され、署名に協力してくださる一般の方もおられました。島教協の周知という点でも成果のあった講演会となりました。

参加者の感想より

●戦後の教育によって、日本人が日本に誇りをもてなくなつたのではないかと話にドキッとした。日本(の文化)を誇りに子どもたちにもつたてたい。

●出雲では身近な神話には、大きな意味があることが分かった。神話をほとんど知らない子どもも増えている。子どもたちにはぜひ神話に触れたいと思った。



少人数学級の拡大を検討！

「存じの方も多いと思いますが、県教委が少人数学級の拡大を検討しているというニュースが報道されました。」

現在、義務標準法では小学1年生が35人学級、小学2年生では加配の教員を配置しての35人学級となっていますが、小学3年生以上は40人学級のままであります。小学1、2年生の30人学級は県独自の取り組み)

県教委は、小学校3年～6年と中学校でも、早ければ来年度から35人学級の導入を検討することです。

実現すれば、来年度、学級数が133増え、教員は150～200人程度新たに必要となり、人件費が新たに6億円必要になるそうです。

少人数学級の拡大により、子どもへの指導が行き届きやすくなる、教職員の負担が減る、校内の教員の数が増える等のよい面が期待できます。

しかしながら、新しく100人以上も質の高い教員を確保できるのだろうか。学級数が増えても空き教室のない学校もあるのでは。等の心配な面もあります。

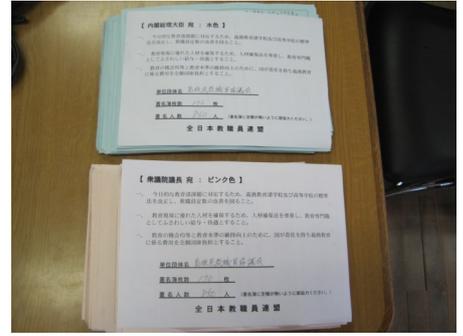
そこで、会員の皆さんの考えを聞かせていただけないでしょうか。少人数学級の拡大について、「これだけは県教委に伝えたい」ということがあれば、同封のFAX用紙で事務局まで送ってください。

十一月十四日(木)、県教委交渉があります。私たち島教協の代表者が、県教委に直接ものを言える貴重な機会です。少人数学級の拡大について、現場の皆さんの声を交えながら要望を伝えるよう、ご協力をお願いします。

署名1710筆を国政へ！

先日ご協力いただいた署名、内閣総理大臣宛に860筆、衆議院議長宛に850筆集まり、全日教連へ送付しました。全国各地からの署名と合わせて国へ要望することになります。

このように島教協は全日教連と連携して、国への要望活動を行っています。



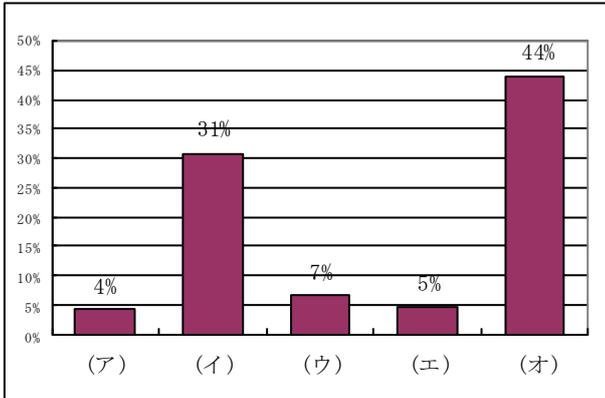
会員アンケートより

(質問)

島根県の再任用制度(60歳以上の方の勤務)は、行政職が週31時間勤務(正規の0.8人分)に対し、教職員は常時勤務か短時間勤務(常時勤務の2分の1)の選択となりました。

教職員の再任用の場合、勤務先が変わることも十分考えられます。あなたは、60歳を超えてどのような勤務を希望されますか？

結果は…



- (ア) 常時勤務
- (イ) 常時勤務の2分の1 (週5日の半日勤務)
- (ウ) 常時勤務の5分の4 (週4日勤務)
- (エ) その他
- (オ) 再任用は希望しない

教職員の再任用制度について

平成26年度の再任用制度について、県教委より文書が出されました。常時勤務と短時間勤務の選択が示されていますが、「常時勤務を基本とする」となっています。

再任用でも常時勤務となれば、学級担任となる場合もあるでしょうし、養護教諭・事務職員として今まで通りフルタイムでの役割を求められることになります。

アンケート結果によれば、再任用での常時勤務を希望する人はわずかです。しかも職務内容として「担任」を希望する人はほとんどいません。職務内容として、「少人数指導」「担任補助」「教科指導」「特別な支援を要する子どもへの対応」などの意見が多くありました。

再任用を希望する教職員が力を発揮できる環境づくりも大事ですが、この再任用制度が現場に混乱をきたすことになってはいけません。他県の情報も入手しつつ、教職員の勤務に合った制度に改善されるよう、関係機関に要望を続けていきます。

中国・四国ブロック大会 ご案内

場所・・・広島県呉市
日時・・・12月7日(土)～8日(日)
参加費・・・3,000円

他県の先生方と情報交換、交流を深めるよい機会です。
7日の午前に出発、8日は12時解散の1泊2日の日程です。
お問い合わせや申し込みは、島教協事務局まで。

▼署名簿と会員アンケートの提出、お忙しい中ご協力いただき、ありがとうございます。▼協会の減が大きな課題となっている島教協ですが、昨年度以上に署名が集まりました。「教育現場を」とにかく何とかしてほしい！」という現場の叫びそのものだと思います。十一月に予定されている県教委交渉や中央要請活動でも、現場の皆さんの声を行政に届けます。▼ご協力いただいた会員アンケート、県教委交渉での貴重な資料とさせていただきます。五年前と比べて勤務時間外の労働時間が増えていること、評価システムの煩わしさやシステムそのものが十分機能しているとは言えないこと等、県教委に伝え、改善を求めていかなければなりません。▼先日の教育講演会で竹田恒泰さんが配付された資料、興味がありましたら事務局まで問い合わせてください。講演の中で、竹田さんが「是非、教育関係の方に読んでいただきたい」と紹介された資料もあります。▼最近の報道によれば「英語授業を小三から」「土曜日の教育活動の推進」「全国学力テストの実施要項の見直し」等々、どんどん新しい制度が検討されているようです。現場でぎりぎりですがんばっている教職員の負担軽減を文部科学省の方々はどのように考えておられるのでしょうか。(し)